

第60回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：令和元年8月2日（木）13:00～14:30
- 場所：内閣府合同庁舎8号館大臣室
- テーマ：Plug and Play Japan 採択スタートアップによるピッチ
- 出席者：別紙参照
- 出席者（内閣府側）：平井国務大臣、左藤副大臣、三輪政府CIO（政府）、神成政府副CIO（政府）、上山CSTI議員、赤石イノベーション統括官、石井企画官（科技）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. ピッチ説明概要

- 株式会社ユカシカド 代表取締役兼CEO 美濃部慎也
尿から栄養検査サービスを提供する企業。ジャパンヘルスケアビジネスコンテスト2018で国内の表彰をもらっている。フィリピンのスラム外から少量問題を変えたいという思いで起業。健康状態を維持するかに特化し、栄養素を定量化。サービス内容は採尿、郵送、改善提案を行うもの。大手企業との協業だけで200件ほどの提案があり、うち10%程度が実際に進行している。今後は2020年に世界に進出したい。また次年度の栄養サミットでプレゼンスを発揮したい。
- ICARIA株式会社 CTO 市川裕樹
尿から癌の早期発見の実現を目指す企業。3人に1人が癌になる状況、すい臓癌は検査手法がない状況のため、早期発見を実現するために設立。癌は体内を住みやすい能力に変える制御をしている。エクソソームという伝達物の補足・解析が難しい状況。名古屋大学の技術を使って網羅的にエクソソームを包括的に補足する技術を生かし、STAGE1でも発見できる高い精度で発見することに成功している。今後は健保や医療機関での導入を目指していきたい。
- 株式会社クオンタムオペレーション 代表取締役CEO 加藤和真
非侵襲での常時血糖値計測デバイスを開発する企業。世界で4億2千万人、国内では850万人の患者が存在している。現状は針を刺して採血しているが、光センサーで常時取得可能なセンサーの開発に取り組んでいる。具体的には血糖の特徴を把握し、それ以外のノイズをキャンセルする技術を持っている。8月、9月には血糖値以外の熱中症予知もできるようなウェアラブル端末を発売予定
- スペースリンク株式会社 代表取締役CEO 阿部晃城

蓄電キャパシタを研究開発する企業。大手メーカーは既存市場でロボットや IoT 分野に適したものの開発が追い付いていない。新興産業にも積極的に展開したいと思っている。「グリーンキャパシタ」という名称でリチウム電池を解決したスーパーキャパシタを開発したい。不燃で既存性能の 100 倍使える電池を研究開発している。革新的な電池で人類の未来に革新をスローガンに 2 年後、量産化を見据えてパートナーと頑張っているところ。

○ Inaho 株式会社 代表取締役 CEO 菱木豊

野菜収穫ロボットを開発する企業。起業 3 年目でアスパラガス回収ロボットのソフト・ハードを内製している。白ラインを引くだけで自動で収穫が可能。夜間でも収穫することができ、太陽などの光に影響されない技術をもつ。ビジネスモデルの特徴は、ロボットを販売せず、収穫したキロ単位での重量単価からマージンをとる方式になっている。収穫率は 70~80%を実現している。現在の野菜収穫は人件費で 7 割くらいが経費として掛かっている。我々はこの労働を代替していきたい。

大臣) ロボットのチップはどこのものを使っているか？

菱木) NVIDIA を使っている。

○ 株式会社アクアビットスパイラルズ 代表取締役 CEO 萩原智啓

アプリ不要で、かざすだけの瞬間コミュニケーションデバイスを開発する企業。萩原氏本人も手に端末を埋め込み、実証中。用途として、例えば、スタジアムの座席に埋め込むとホットドックが運ばれてくる、ワインボトルの生産地などトレーサビリティ機能など、モノと決済をつなごうとしている、パーキングメーターで現金支払いではない体験を提供する。フランスビジネス大賞など、日本のみならず賞を得ており評価されている。モノとサービス情報をつないで、”ググらせない。“多言語配信に対応済みで、おもてなしに最適と考える。

○ 株式会社 souco 代表取締役 中原久根人

倉庫の空き情報を管理し、オンデマンドでユーザーが使いたい時だけ使うサービスを提供する企業。日本だけで 2 兆円規模の市場がある。日本の倉庫は柔軟性がなく、手続きが煩雑、不透明で閉ざされている状況。倉庫の空き情報が管理されていないため、これをマーケットプレイスで解決しようとしている。使いたい事業者を募集データベースを作って提供するもの。これまで 180 日かかっていたプロセスが 3 日で済んでいる。全国展開しているところ。

大臣) 両方からお金をもらうのか？

回答) 借り手側からが基本的にもらう。サービスを提供しているのは、アジアではインドネシアで 1 社と当社だけ。

- 株式会社アジラ 代表取締役社長兼 CEO 木村大介
カメラの映像から何をしているか、しようとしているか AI が推測し安全安心を提供する技術開発する企業。想定シーンとして、アジラ AI は屋外の喧嘩の検知や介護施設などでのアラート対応などがある。オープンイノベーションで製品化を進めているところ。知財申請もしており国内済み、北米は申請中。
アジラ AI は、労働集約型の仕事をなくし、生産性を高める AI。AI はオープンソースにして公共財としたい。

- クロスロケーションズ株式会社 代表取締役 小尾一介
位置情報空間情報を AI で分析する企業。位置情報はスマホやみちびきなど精細な位置情報が得られ、新しい石油のような貴重な資源。開発の障壁は、データ取得を人でやっている点。取得後に解析するのも大変で傾向やインサイトを導き出すのは困難。これは AI が得意なところで、当社では、ロケーション AI プラットフォームを作って分析をしている。例えば、川崎のラゾーナに来る人がどのエリアからなのかといった予測をすることができる。定点観測をデータから瞬時にわかるシステムを作っている。

- 株式会社 Legal Technology 代表取締役 CEO 弁護士 二木康晴
法律の専門書をオンラインで見られるサービスを提供する企業。法曹界は権威が重要なところで、大手の法律事務所には図書館がある。それも便利ではなく本を一冊ずつ借り、人気の書籍は、タイムリーに見られないといった問題がある。当社では法律の専門書を中身までオンラインで見られるようにしている。検索して中身まで見られる技術がコア技術。では著作権はどうかということところだが、出版社は 1 冊本の売り切りになっており、もうからない状況。このため、当社では利用者から読まれたページ数に応じて出版社に支払う形としたビジネスモデル。提携してサブスクビジネスを提供している。

- Plug and Play 藤本氏より挨拶
本日は 69 社のうち精鋭 10 社を連れてまいりました。当社は、テクノロジーを使って大企業と連携する活動を今期 3 期目で加速して取り組んでいる。今後もスタートアップの声をお届けしたい。

3. 質疑応答・議論

市川) Icaria は名古屋大学発のベンチャーであるが、一番の課題は研究開発が加速できない点。大学のサポートが薄く、知財やバックのオフィスのレベルアップが課題と感じる。大学側が短期的な視点になりがちになっている。大学としても成果を出さな

いといけないので、事業では中長期的なロードマップに関するビジネスマインドが大学側にもあるといい。

大臣) 世界を考えているか。

市川) 今後、拠点はアメリカに移すことを考えている。

上山) 個別研究室ではなく組織の問題、組織がスタートアップとどうかかわっているか
大学も財務的に厳しい状況。日本は民間資金が動いていない。

菱木) inaho では、これから EU に視察へ行くが、その際に大使館のサポートとかないか。
現地のことがわからないことが多いため、JETRO とか教えてもらいたい。

A-FIVE の支援や農水からの認可を得ようとしているが、減点方針でしか見てくれない。農林水産省の生産局技術普及課の方が大手メーカーのレベルを求められるなどハードルが高い。

美濃部) ユカシカドでの課題は、尿に関するエビデンスがうすい点。昔から尿が栄養を図るにはいいといわれているが、エビデンスが足りてない。血液に偏りがちとなっており、医療的にダメと言われており、栄養サミットでアピールすることが難しい状況。本当に健康になるのかというところでの蓄積がない。

医療ではちがいが明かないので、サプリとか食品での提供も考えているが、オープンイノベーションにより、大きなサプリーメーカーが使いちゃうのは守らないといけないので、オープンクローズ戦略が重要と認識している。

加藤) クオインタムオペレーションでの課題は、血圧は取れるが医療機器は難しいという点。PMDA の認可を得ることは壁があるので、現状では医療機器として認可が得られない。

神成) 検査認可にかかるのであれば、医療機器ではなく、デファクトを狙うべき。むしろ、医療機器にならないほうがいいのではないか。

赤石) 医療機器準拠を企業側も求めているが、医療機器といわないというクリエイティビリティの問題。精度を証明する方がよいのではないか。

萩原) アクアビットスパイラルズは、日本のキャッシュレスは QR が主流となっているが、廉価なタグをつけることで代替できると考えている。アップルもやっていて 11 月にサンフランシスコでアップルペイを活用してやるとのこと。その際、ターミナルもアプリもいらないと発表している。当社も先行して技術開発を行っており、ぜひインバウンドでも利用したい。たとえばオリパラと連携するのはどうか。ベンディングマシンとか、訪日外国人がスイカとかアプリとかラインとか入れるはずがないので、アプリレスで便利ではないか。金券や自販機とかパーキングメーターなど。

大臣) ビーコンはあるがまだやってない

赤石) できればオリパラでやればよいと思う。

中原) souko での課題は、宅建業法と倉庫行法が絡まっており苦労している。倉庫が開いても、営業倉庫ではないので倉庫会社はお客の荷物をおけないなどの事案があ

る。具体的には空きスペースはあるが、自社倉庫として使えるが、物流会社は営業倉庫ではないのでおけないことがある。

木村) アジラでの課題は、大企業と組み情報が大量にあるがその情報を出してくれない。敷居が高い。データはディープラーニング用に必要だが、大企業から出すことができない。交渉しても半年かかったりする。どの企業もかなりの量を持っているが、出すことができない。

大臣) エブリセンスのデータ取引市場を通じて出してもらうのはどうか。

木村) 本来はオープンイノベーションなので価値を作り出したい。

赤石) 個人情報の観点からだせないこともある。

大臣) エブリセンスとぜひアプローチしてほしい。

大臣) 自治体から欲しい情報とかないがないか。メールでもらえればよい。

大臣) みちびきのデータをもっと活用したいがどうか。

小尾) みちびきはまだスマホに入らない。OSは対応しているが。GPSメインだと10m範囲

赤石) MasSには使えるのか

小尾) 自動車会社と話をしているが車データで我々はスマホのデータを活用したいと思う。

二木) 法律情報で国のものでも有用なものだけが上に来ない。国はSU対策がしていないので下に来てしまう。モデル規則を厚生労働省が出しているのに出てこない。

大臣) オープンデータで出せる話であるが、弁護士.comなどとは棲み分けている。

美濃部) グレーゾーン解消したいこととして、ヘルスケアは広義で検査結果に基づいてアドバイスするため、サプリを奨めるのはグレーの中でグレー、弁護士でも解釈が異なる。栄養療法に医師の介在とか明確にしたい。

大臣) ドラックストアなどと組んでいるか？

美濃部) 薬局500店とやっている。

大臣) 医療点数とちがうところでやるべき。

阿部) スペースリンクでは、大企業との連携に課題がある。Plug and playは対等につないでくれるが、中小機構のJ-GoodTechはものすごく使いにくい。1回の提案への対応をもっと細かく書かないと、どこにだすのか、情報が盗まれたのかわからない。大企業目線ではないもの。基本的に大手のニーズに合うか合わないかというもので、ベンチャーは面談してもらえない。大手のハブの人と会って新しいアイデアが議論できるのはプラグアンドプレイ。今、期待しているのはみずほとかINCJとか、最も大手とのネットワークを持っているので期待している。

大臣) 量産体制には入れそうか。

阿部) 特許庁のマッチングプログラムにお世話になっている。

融資は受けず、出資を募っているところ。

萩原) 民泊の本人決済について、端末の生体認証を使って、空港カウンターで本人確認したら、8時間以内に宿泊で許可するとかできないか。距離の制限でできないのではないかとされたが、端末生体認証を信頼するかのところ。

萩原) 民泊にとっては欲しいはず。1回本人確認で別の場所で時間制限とか帰りの空港券とかの可能性はあるのではないか。

大臣) 今日はよかった。いろんなセクションの人がいるのでたいていのご要望は協力できるはず。周りの人を巻き込む力をつけて説得力を得てほしい。

以上

【採択企業一覧】

- 株式会社ユカシカド 代表取締役兼 CEO 美濃部慎也
- ICARIA 株式会社 CTO 市川裕樹
- 株式会社クオンタムオペレーション 代表取締役 CEO 加藤和真
- スペースリンク株式会社 代表取締役 CEO 阿部晃城
- Inaho 株式会社 代表取締役 CEO 菱木豊
- 株式会社アクアビットスパイラルズ 代表取締役 CEO
- 株式会社 souco 代表取締役 中原久根人
- 株式会社アジラ 代表取締役社長兼 CEO 木村大介
- クロスロケーションズ株式会社 代表取締役 小尾一介
- 株式会社 Legal Technology 代表取締役 CEO 弁護士 二木康晴